

自己評価報告書

平成23年3月31日現在

機関番号：12604

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20300233

研究課題名（和文） ジェンダー・センシティブな子育て家族支援グループ

研究課題名（英文） Gender Sensitive Family and Parenting Support Group

研究代表者

田村 毅（TAMURA TAKESHI）

東京学芸大学・教育学部・教授

研究者番号：10242231

研究分野：家族関係学、児童学

科研費の分科・細目：生活科学・生活科学一般

キーワード：家族関係・保育・子育て

1. 研究計画の概要

- (1) 夫婦合同グループ⇒乳幼児期～思春期の子育て中の参加者（両親が原則）を地域から募り、月1回週末に集まり、子育て体験について話し合う。すでに月1回実施しているグループの継続（24年度まで継続する）。新たなメンバーを募集する。参加者へインタビューを行い、グループが家族発達に及ぼす影響について分析する。
- (2) 児童福祉司が男性虐待者に対するケースワーク上持つ困難感についての分析⇒児童虐待のケースを担当する児童福祉司に対して、当面する課題、留意点に関してフォーカス・グループインタビューを行い、会話記録を作成し、質的分析を行う。さらに、「男性虐待者への対応マニュアル」の作成に着手する。
- (3) 子育て母親グループ⇒0～5歳の子育て中のハイリスク親数名が集まり、8回シリーズで子育てについて、ファシリテーターを中心にして振り返る。
- (4) 子育て夫婦に対する追跡調査の分析⇒子育て観および家族関係の変化について、詳細な分析を行う。

2. 研究の進捗状況

- (1) 児童福祉司のフォーカスグループを実施した。内容はトランスクリプトにし、修正版グランデッドセオリー（M-GTA）を使って分析した。保健所で開催されてきた多職種合同のケース研究会で、虐待事例

への多職種の協働を検討した。

- (2) 家族再統合が可能な事例を対象にした父親グループを大阪市児童相談所と東京都児童相談センターで実施した。毎月2回のグループワークと月2回の個人カウンセリングもしくは夫婦カウンセリングとして実施している。また、ドメスティック・バイオレンスに焦点をあてた加害男性向けグループワーク（「脱暴力グループワーク」としている）を実施した。
- (3) 子育て中の親グループの企画・運営（夫婦サロン）を実施した。子どもの成長とともに、家族の生活パターンも変化がみられる。対子どもとの関係よりも、あらためて、親の成育歴の振り返りや夫婦の関係のあり方が話題になること多かった。
- (4) 高齢期の女性を活かした子育て支援システムの構築に関する研究を行った。プレグランマ5名を対象に、孫世代の子育てへの考え方やその可能性などを問う面接調査を実施した。分析は、面接で得られたデータを逐語録におこし意味内容をカテゴリー化した。
- (5) 高校生を対象にしたジェンダー・アイデンティティと養育体験の調査を実施した。
- (6) 震災による被災家族（主に母親）に対してNobody's Perfect 親支援プログラムを実施した。
- (7) 家庭訪問型子育て支援「ホームスタ

ート」を企画した。子育て支援 NPO 法人への協力として、ホームビジター養成に関与した。社会との交流が希薄で支援からまれてしまうマイノリティーに目を向け、訪問支援活動を実践した。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。
(理由) 研究計画が着実に遂行されているから。

4. 今後の研究の推進方策

- (1) 夫婦合同グループについてまとめ、グループが家族発達に及ぼす影響について考察する。
- (2) 児童福祉司が男性虐待者に対するケースワーク上持つ困難感についてフォーカス・グループインタビューの分析を行い考察する。
- (3) 子育て母親グループについて、ファミリーテーターを中心にして振り返り、その効果を考察する。
- (4) 子育て夫婦に対する追跡調査について、詳細な分析と考察を行う。

5. 代表的な研究成果

〔雑誌論文〕(計6件)

- ① 中村正「社会臨床の視界(4) 社会の詩的言語としての臨床と表象」『対人援助学マガジン(デジタル)』第4号、日本対人援助学会、2011年3月(査読なし) 3-5
- ② 中村正「社会臨床の視界(3) 社会臨床という思考のレッシン-メビウスの輪のようにねじれてつながる関係性を理解する」『対人援助学マガジン(デジタル)』第3号、日本対人援助学会、2010年12月(査読なし)
- ③ 中村正「社会臨床の視界(2) 「あいだ」への関心-加害者臨床-」『対人援助学マガジン(デジタル)』第2号、日本対人援助学会、2010年10月(査読なし)
- ④ 中村正「加害者臨床のめざすこと-DV・虐待に焦点を当てた脱暴力への支援をとおして」『季刊刑事弁護』第64号、2010年10月(査読あり)
- ⑤ 中村正「社会臨床の視界(1) 歴史のなかの臨床課題」『対人援助学マガジン(デジタル)』第1号、日本対人援助学会、2010年7月(査読なし)
- ⑥ 中村正「親密な関係性における虐待・暴力と加害者臨床論-虐待的パーソナリテ

イ論の検討をとおして」『立命館産業社会論集』第46巻第1号、139-153. 2010年6月(査読あり)

〔学会発表〕(計2件)

- ① 中村正「司法臨床の可能性-加害者治療の観点から-」、法と心理学会第11回大会、立命館大学、2010年11月
- ② 中村正「対人援助における身体と生活」、日本対人援助学会第2回大会、立命館大学、2010年11月